

平成30年度 県立岩井高等学校自己評価表

目指す学校像	(1) 変化の激しい社会をたくましく生きていくための「生きる力」を育み、心身共に健康な地域や社会に貢献できる人間を育成できる学校 (2) キャリア教育の充実を図り、生徒ひとりひとりの興味・関心や適性に応じた進路実現ができる学校 (3) 地域の教育的ニーズに応え、生徒・保護者・地域社会に広く信頼される魅力ある学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>観点別評価による評価と連動した指導方法の研究が浸透してきている。今後は、さらに評価及び指導方法の定着を図り、個に応じたきめ細やかな指導向上に努める。</p> <p>進路指導面では、1学年からの進路別見学会や参加型のガイダンスによる体験的キャリア教育の充実を図り、キャリアカウンセリング等の個に応じた進路指導体制の確立が見られる。本校の特徴である生徒のニーズに答える進路指導のノウハウを定着させ、さらに充実を図る。</p> <p>学校説明会、学園祭を始め、学校行事への生徒たちの積極的参加によって生徒の自主性が発揮され、達成感や学校への帰属意識が育まれてきている。また、部活動においては、柔道部の関東大会出場、ハンドボール部の県大会上位進出、写真部の全国大会出展決定等、成果が見られている。このように継続しての成果が見られる現状を、いかにして地域の人々に知ってもらい、志願者増加につながるかが課題である。</p> <p>地域との連携においては、相互の授業参観等で地域の中学校との連携を図り、文化部を中心とした地域行事への参加によって地域社会との交流を進め、一定の成果があったが、志願者確保に未だ課題が残る。昨年にも増して、広報活動に力を入れ、本校の良さを理解していただく情報の発信の工夫が課題である。</p>	<p>ア 学力の向上を目指す諸指導の実践</p>	<p>① 主体的学習態度を養い、思考力、判断力、表現力を高める授業の改善を図る。 ② ICT活用・小テスト等の導入により学習意欲の向上と基礎学力の定着を図る。 ③ アクティブ・ラーニングの導入を試み、言語活動の充実を図る。 ④ 各種検定試験の合格者やセンター試験利用による合格者を増加させる。 ⑤ 学習課題を工夫する等の手法をとることによって、自宅学習時間を確保・増加させる。 ⑥ 観点別学習状況の評価の浸透を図る。 ⑦ 小中学校との相互授業参観等の取り組みを通して、学習指導の工夫・改善を図る。</p>	B
<p>イ 個に応じた進路指導の実践によるキャリア教育の充実</p>	<p>⑧ 職業観・勤労観を形成し、自己目標を明確化をさせるため個別面談の充実を図る。 ⑨ キャリアカウンセリングや地域と連携したインターンシップ等の体験的活動により生徒の進路意識を高める。 ⑩ 基礎力の定着や学習能力の向上を進める課外体制の充実を図る。 ⑪ 資格取得など特色を生かす教育課程の充実を図る。 ⑫ 生徒・保護者への情報提供だけでなく、参加型の行事の充実を図り、進路意識を高める。</p>	B	
<p>ウ 人間性・社会性を養う教育活動の展開</p>	<p>⑬ 学校生活を通し自らを律するとともに、他者との協調性を培う。 ⑭ 組織に所属する自己肯定感を高め、校歌を歌うことなどにより母校愛を育成する。 ⑮ 各種講演会や面談を通し生徒の自己理解・自己指導能力を育成し、事故等の未然防止に努める。 ⑯ 地域や社会の行事に積極的に参加し、地域社会に貢献する意識を育てる。</p>	B	
<p>エ 特別活動・広報活動の活性化</p>	<p>⑰ 生徒が主体的・積極的に参加できる学校行事を企画・実践する。 ⑱ 各部活動の加入率を高める。 ⑲ ホームページや学校通信等により、本校の教育活動を学校内外に積極的に発信する。 ⑳ 地域の小・中学校と連携協力した取組を通して信頼関係を再構築し、志願者増につなげる。</p>	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
教	国語	基礎学力の確実な定着および向上を図る	「分かる授業」を展開するため、系統的な指導内容になるよう工夫する。ア①	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学習環境の整備 ・学力相応の指導内容・方法を構築する。 ・上級学校進学後に対応できる学力の育成。
		生徒の実態に即した授業展開を行う	小テスト等を有効に活用し、定着度を把握しながらきめ細かな指導の推進を図る。ア②	A	
		生徒の進路希望に応じた国語力の定着を図る	内容を精選した題材を用い、生徒に興味関心を持たせる。ア①	B	
		生徒の進路希望に応じた国語力の定着を図る	基礎力の定着を図るとともに、学力に応じた目標を設定する。ア①	A	
	地歴・公民	生徒の実態に即した授業展開を行う	単元毎に目標を明確に提示する。ア①	A	<ul style="list-style-type: none"> ・公民としての社会の在り方や人間としての生き方について選択・判断する力の育成 ・生徒の実態に合わせた教材の選択と授業展開
		生徒が意欲的に参加できる授業を行う	生徒の実態に即し、教科内容を精選した資料や例（新聞・雑誌・インターネット・DVDなど）を提示する。ア①②	A	
		基礎力の向上を図る	選挙権が18歳からになったことを踏まえ、主権者教育を重視する。ウ⑩	A	
		基礎力の向上を図る	グループ学習やレポートの発表など生徒参加型の授業形態を取り入れる。ア①③	B	
	数学	基礎学力の向上を図る	状況に応じた発問を行う。ア①	A	<ul style="list-style-type: none"> ・不測の事態に対応できる余裕のある指導体制の構築 ・生徒の実態に応じた指導内容の調整
		問題を解く力を養う	ノート・問題集など整然とまとめさせる。ア①	B	
		授業時の理解度を把握する	フィードバックしながら関連事項についての理解を深める。ア①	A	
		授業時の理解度を把握する	「わかる授業」を展開するため、板書、発問の仕方、課題プリントなどを工夫する。ア⑤	A	
理科	理科への興味・関心の高揚を図り、基本的学習内容を定着させる。	放課後や長期休業中の補習を活用し、理解度の低い生徒に対応する。ア⑤	B	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングをより実践的に授業に取り入れ実施したい。 ・学習態度 ・小テストの実施 	
	知的好奇心や探求心を高め、思考力・判断力・表現力等を育成する指導内容の改善の充実を図る。	生徒の学力に応じた適切な問題を選択し、課外なども利用し演習させる。ア①⑩	A		
	観点別評価の更なる推進。	問題演習時間を十分に確保し、やる気を喚起する指導を行う。ア①⑤	B		
	観点別評価の更なる推進。	机間指導や問題集・ノートなどの点検により理解度の把握に努める。ア①	A		
	観点別評価の更なる推進。	小テストや課題等を利用して生徒の学習状況を把握する。ア②⑥	A		
	観点別評価の更なる推進。	「わかる授業」を展開するために、アクティブラーニングを導入し、板書、補助教材教具を工夫する。ア③	B		
保健体育	単元計画目標を明確に提示し、生徒の実態に応じた授業を展開する	授業中に「小テスト」等を実施し、繰り返し学習することで知識の定着を図る。ア②	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の体力や運動能力には個人差があるが、集団の中で個人の責任を果たし、仲間と連携することによって運動の楽しさを味わうことができるよう工夫していく。また生涯を通じて自らの健康を管理することができる能力の育成に努める。 	
	時間や約束事の厳守、活動時間の確保と授業内容の充実を図る	ICTを活用して理科への興味・関心を高める。ア②	B		
	運動を中心とした健康的な生活習慣を確立させる	対話を重視した授業の実施を行い、言語活動の充実を図る。ア③	B		
	運動を中心とした健康的な生活習慣を確立させる	観察・実験を計画的に実施し、科学的な探究心を身につけさせる。ア①③	B		
	運動を中心とした健康的な生活習慣を確立させる	教科内の評価方法の共通理解を図り、生徒の実態に応じた適切な評価を行う。ア①⑥	B		
	運動を中心とした健康的な生活習慣を確立させる	指導と評価の一体化による授業改善や生徒の意欲向上を図る。ア①⑥	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
教	芸術	基本的な技能を習得させる	基本練習を充実させ、作品に取り入れられるようにする。ア①②	B	<ul style="list-style-type: none"> 興味関心が高まる教材の選定や基本的な表現技法を習得及びレベルに添った指導を工夫。 表現する楽しさ、美意識の向上創造性豊かな表現技法の育成。
		のびのびとした表現活動ができるようにする	机間指導を行い、生徒の理解度を把握し、適切な助言指導を行う。ア①⑥	A	
	術	教室環境、用具の整備、管理を充実させる	生徒の実態に即した教材の精選と教材研究に努め、授業の展開方法を工夫する。ア①	A	
			実技研修に努め、生徒の実態に即した支援を行えるようにする。ア①	A	
	外国語	基礎学力の向上を図る	教室環境を整え、活動意欲を喚起する。ア①	A	
			用具の整備、管理を十分にし、わかりやすく、楽しい授業につなげる。ア①	B	
			生徒一人ひとりの理解度に応じて細部まで指導が行き渡る授業を実践する。ア①	A	
			パフォーマンステスト等の活用・課外の充実等により、英語の基礎力の定着を図る。ア②、イ⑩	B	
	家庭	家庭学習の習慣を身につけさせる	同じ科目や学年担当教員との連携が取れるように定期的に話し合いの場を設け、授業内容や進度について意見交換をする。ア①	A	<ul style="list-style-type: none"> 英語への学習意欲の向上 英語への苦手意識の克服につながる指導方法の工夫や改善 進学希望生徒に対して、基礎学力の定着を図り、演習を取り入れた指導の充実を努める。 「協働的な学び」を実感させる授業の工夫を努める。
		授業を通して英語や日本語でコミュニケーションをとる喜びを実感させ、コミュニケーションの素地を作る	定期的に課題を提示し、回収点検をする。また、生徒全員が期限を守って提出するように指導徹底する。ア⑤	A	
			特進・進学クラスにおいては週末課題を課し、大学進学のための基礎作りを行う。ア⑤	B	
	家庭	生活に必要な基礎的・基本的な知識技術を習得させる	ALTとのチームティーチング等を通して、生徒が英語圏の文化に興味関心を持つような授業を展開できるように工夫する。また、表現活動を充実させて、自分たちの英語が通じることを実感させる。ア①③	A	
実験実習を中心としたわかりやすい授業を展開する		グループ学習やペア学習を導入することによって、「協働的な学び」の喜びを実感させる。ア①③	B		
		パワーポイントやDVDなど視聴覚教材を使い、生徒の興味関心を高める工夫をする。ア②	B		
家庭	家庭生活の充実向上を図るための指導を工夫する	生活の基礎的・基本的知識や技術を習得させるため新聞記事などの新しいトピックを利用する。ア①	B		
		調理検定4・3級の内容を実技指導に盛り込むことで、検定の受検意欲を高める。ア④イ⑩	B		
		DVDや掲示資料を工夫し、興味関心を深めると共に理解しやすい指導に努める。ア①②	A		
商業	簿記の基本的な知識と技術を習得させる	実験実習の指導に実技テストを導入し、実技の習得向上を目指す。ア②⑥	B		
	電卓・パソコン技能を身につけさせる	グループ学習の指導を工夫し、調理実習などの実践的活動を意欲的に行えるようにする。ア③	A		
	ビジネス活動で必要とされる能力と態度を身につけさせる	生徒が興味をもって取り組めるワークシートを検討し、工夫改善をする。ア①⑥	B		
情報	ソフトの基本操作を身につけさせる	ホームプロジェクトを夏休みの課題とし、家庭生活の充実向上に努める。ア⑤	B		
	情報を活用するための工夫をする	研修会や講習会に参加し、学んだことを生徒への指導に生かす。ア①	B		
	情報社会について理解を深め、情報モラルを身につける	各帳簿の記入の必要性を理解させ、帳票の記録・計算・集計を反復練習させる。ア①④⑤⑥イ⑩	B		
		電卓・パソコンの操作方法と基本技能を習得させる。ア①④⑥イ⑩	A		
情報	ソフトの基本操作を身につけさせる	ビジネスの諸活動に広く関心を持たせ、その意義や役割の理解を深め、主体的に学習に取り組めるよう望ましい心構えや態度を身につけさせる。ウ⑬	B		
	情報を活用するための工夫をする	文書作成ソフトについて基本的な知識・技能を習得させる。ア①⑥	B		
	情報社会について理解を深め、情報モラルを身につける	表計算ソフトについて基本的な知識を習得させる。ア①⑥	B		
		情報機器の種類と特徴を指導する。ア①⑥	A		
情報	情報社会について理解を深め、情報モラルを身につける	個別実習を通して生徒が主体的に情報機器を活用できるようにする。ア①⑥	B		
		インターネットの活用方法や情報を共有する決まりを指導する。ア①⑤⑥	A		
		ネットワーク社会のルールとマナー、情報モラル等を具体例を用いて指導する。ア①⑤⑥	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
教務	ICT活用・小テスト等の導入により学習意欲の向上と基礎学力の定着を図る。	学校における教育の情報化の推進に伴い、授業にICTをスムーズに取り入れるために普通教室のICT設備環境の整備を行う。ア②	B	<ul style="list-style-type: none"> ICT設備使用説明会の実施 アクティブラーニング研修の充実 相互授業参観の機械拡充 シラバスの充実 教員負担の軽減 HPに携わる職員数の拡大 マニアのみ使用できる機器の廃棄 セキュリティポリシー浸透
	アクティブ・ラーニングの導入を試み、言語活動の充実を図る。	アクティブ・ラーニングについての理解を深め、教授法向上を図る。ア③ 各教科内での情報共有及び授業研究を推進するために、相互授業参観等の取り組みの支援する。ア③	B	
	観点別学習状況の評価の浸透を図る	各教科内での情報共有及び授業研究を推進することで、評価と連動した指導方法の研究への取り組みを支援する。ア⑥	B	
	教育課程の適切な実施と改善を図る	学校設定科目についてPDCAを進める。エ⑩	B	
	広報活動の充実を図る	定期的にホームページの更新、学校新聞「双峰」を継続し、生徒の活動を地域に発信する。エ⑨	A	
	成績管理等システム化の推進	職員が円滑に成績処理等が行えるよう校内の情報機器を管理する。	A	
	情報セキュリティ対策の推進	個人情報の保護を念頭に入れた情報機器の使用について、職員の危機管理意識の高揚を図る。 情報管理部職員のセキュリティ対策について技術を高めるための研修を推進する。	B B	
生徒指導	基本的生活習慣の確立	朝の登校指導を含め、生徒に積極的に声をかけていく場面を増やす。ウ⑬	A	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時、授業開始時に積極的な声かけ指導を行い、社会通念上妥当なレベルを維持できるよう継続指導を徹底。 場面に応じた丁寧な言葉遣いができるよう指導継続。 交通安全の意識を高めるための講演会の実施や点検・実技講習の充実。 問題行動等未然防止として実施している各種講演会、アンケート調査の継続実施。 スクールカウンセラーによるカウンセリングの継続実施。
		校外外での生徒の服装・態度について、社会通念上妥当なレベルを維持できるよう指導する。ウ⑬⑭	B	
	場面に応じた対応ができる生徒の育成	チャイム着席の徹底。ウ⑬	B	
		ていねいな言葉遣いができるよう指導する。ウ⑬	B	
		集会等の全体行動を通して自主性を育てる。ウ⑬	A	
	交通安全指導の充実	自転車通学者の安全意識を高める。ウ⑮	B	
		バイク通学者に対して実技指導を実施する。ウ⑮	A	
	問題行動の予防	各種巡回指導を実施する。ウ⑮ 交通安全講話、薬物乱用防止講話、ケータイ・ネット講話等の各種講話を実施する。ウ⑮	A A	
	いじめの未然防止、早期発見に努める	自主的行動を意識させ、生徒自身が律する能力を高める。ウ⑬	B	
		「いじめはすべての学校に起こりうる」という認識で、日々の教育活動の中で注視していく。エ⑬	B	
いじめ発生時に早期解消に努める	当事者およびその保護者に適切に対応し、断固としていじめをやめさせる。ウ⑮	A		
いじめの件で関係機関との連携を密にする	保護者との連絡を密にするとともに、必要に応じて警察等にも相談する。ウ⑮	A		
いじめに関する教員研修を行う	研修を実施し、対応方法の共通理解を図る。ウ⑮	A		
教育相談の充実	スクールカウンセラーによる生徒へのカウンセリングと保護者に対する助言・指導の充実を図る。ウ⑮	A		
進路指導	進路意識及び学力の向上	進路希望調査、進路適性検査を実施し、自己理解と進路意識の向上を図る。イ⑧	B	<ul style="list-style-type: none"> 進学希望者課外を充実。 進学模擬試験を効果的に実施。 保護者への進路情報の発信を増加。
		効果的な模擬試験の実施・課外指導の充実により、学力の向上に努めるように動機付けをする。イ⑩	B	
		進学希望者はセンター試験を目標とし、受験勉強に取り組ませる。ア④	B	
	個々の進路希望に応じた指導の充実	生徒の適性や進路希望に基づいた計画的、組織的な進路ガイダンスを実施する。イ⑧	A	
		インターンシップ等の地域と連携した活動により、主体的な職業選択ができるよう支援する。イ⑧⑨	A	
		入社試験・入学試験の際に求められる、コミュニケーション能力や人間性・社会性を養うため、模擬面接や個別指導を行う。イ⑧ ウ⑬	A	
	就職内定率100%および志望校への進学を達成させ、外部へ情報を発信する。エ⑰⑱	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
	より良い進路選択のための、教職員・生徒及び保護者との連携の強化	P T A総会、面談や進路説明会等の機会を通して進路情報を発信し保護者への啓発を図り、進路実現に向けての理解と協力が得られる態勢を整える。イ⑨ エ⑱	B	
		教員対象の説明会や研修会への参加を促し、進路情報を共有すると共に教員のモチベーションを高めて生徒・保護者に還元する。イ⑫	B	
保健 厚生	健康に関する自己管理意識の向上	各種検診等を通して、自らの健康の維持増進に関する自己管理意識を高める。ウ⑬	A	A ・教員の定数減にともない清掃監督の割り振りの工夫及び検討。 ・各種行事についても反省課題を念頭に実施・運営方法を見直す。 ・教職員間の情報共有を促進し、学校生活の安全衛生に努める環境の整備。
	校内の環境整備と清掃活動の充実	定期的に修繕箇所の点検を実施する。	A	
		清掃用具の在庫等の確認と各清掃区域の用具を整備する。	A	
		大掃除やクリーンプロジェクトの機会を利用し、清掃活動の向上を図る。ウ⑬	A	
	防火・防災訓練	より具体的なマニュアルを作成し、非常時に役立つ訓練を行う。エ⑮	A	
	保健・厚生委員会の活発化	学校行事での保健活動、各種統計処理、保健意識の啓発、各種健康学習の推進（保健）エ⑮	A	
環境整備活動への協力、E C O活動推進等（厚生）。エ⑮		B		
特別 活動	生徒一人ひとりが生き生きとした学校となるための学校行事の創造	生徒が積極的に参加できる学校行事を企画、運営をする。エ⑰	A	B ・各行事に対して早期に取り組み、打合せを通して情報の共有化を図る。 ・各行事において、生徒会・委員会・クラスの連携と組織的活動を図る。 ・行事においては、生徒・教員の負担にならないよう活動内容を見直す。 ・部活動の加入率を上げ、活性化を図る。
		学校行事を通して、成就感や達成感を体験させ、クラスの連帯意識を支援する。ウ⑭	A	
	生徒会活動の活発化	本部役員に「生徒の自治」という事を意識させ、その頂点にいる自覚と責任を持たせることにより、主体的に活動できるようにする。エ⑰	A	
		「各クラスでの話し合い→評議委員会→生徒会行事」という形を確立する。ウ⑬	C	
		部活動の活性化	生徒の自主的・自発的な活動を支援する。エ⑰	
		部員に対し、技術・生活・学習面での指導を徹底し、生徒との信頼関係を深める。エ⑱	B	
		部活動紹介、体験入部の充実を図り、部活動の加入率を40%以上にする。エ⑱	B	
図 書	図書館利用の推進	生徒や職員から購入希望の本を調査し、良書を選定する。エ⑰	A	A ・老朽化した視聴覚室機材・放送機材更新。 ・自分で考えて責任を持って行える図書委員の育成。
		図書委員会の活動と新着本の情報を月1回以上、ホームページで更新する。エ⑱	A	
		季節に合わせて館内を飾ったり特集を組むなどして、明るく居心地の良い図書館をめざす。エ⑰	A	
	図書部主催の文化的行事の充実	生徒や職員が楽しめるように、芸術鑑賞会の演目や文学散歩の行き先などを吟味する。エ⑰	B	
		図書委員が広報紙『ポプラ』を行事毎に発行できるように、係職員が指導する。エ⑰	A	
		図書委員会の活動を活発化させ、責任感があり自主的に行動できる生徒を育てる。エ⑰	B	
視聴覚機器・資料の充実と有効利用	HRや授業で使えるDVDを選定し、有効活用を進める。ア②	A		
	視聴覚機器の保守と整備を充実させる。ア①	B		
渉 外	P T A活動の活性化	P T A総会に進路講演会を取り入れ、P T A総会の出席率の向上に努める。また、本部役員を中心に会員全体が協力し、充実したP T A活動の実施に努める。イ⑫	B	A
		広報活動の充実	P T A会報を発行し、学校概況や全国・関東高P連などの活動状況を発信する。エ⑱	
		ホームページにP T Aのページを作成し、P T A活動の情報を発信する。エ⑱	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
第1学年	良好な学習態度を確立させ、学力の向上を図る	チャイム着席と授業準備を徹底し授業に積極的に参加する態度を育成する。ア①ウ⑬	B	授業も含めた日常生活の中で、生徒自らが考え、場面に応じた適切な行動ができるよう支援していく。
		進学希望者に対して適切な情報の提供に努め、よりよい学習法の確立を援助する。イ⑩⑫	B	
		基礎学力向上のための支援を行う。ア②	B	
	教室内外の環境整備に努める	清掃の徹底を図る。ウ⑬	B	
		教室内の生徒私物の管理を徹底させる。ウ⑬	B	
		公共の場での振り舞いや公共物を大切にすることを心で育成に努める。ウ⑬	B	
	基本的な生活習慣の確立を図る	自らを律する力を意識させることで、場面に応じて適切に対応できる能力を育てる。ウ⑬	B	
		挨拶の励行に努める。ウ⑬	B	
		時間を守る態度を育てる。ウ⑬	B	
		常に制服を正規着用できるように声かけしていく。ウ⑬	B	
	人間性・社会性を養う教育活動の充実を図る	学校行事や部活動に積極的に参加し、自らを律し他者と協調して共に成長する連帯感を養う。ウ⑬	B	
		言葉遣い、問いかげに対する誠実な返答等の礼儀指導に努める。ウ⑬	B	
他者への思いやりの心を育てる。ウ⑬		B		
		生徒各自が役割を意識し、その責任を果たせるよう働きかける。ウ⑬	B	
第2学年	良好な学習態度を確立させ、学力の向上を図る	チャイム着席を徹底させ、授業に積極的に参加する態度を育成する。ア①ウ⑬	C	・基本的な生活習慣や校則に対する生徒の対応について改善していくように教員全体で共通理解を持って指導すべきでは。 ・当たり前を当たり前で時間、服装、規律を守らせる。
		進学希望者に対して適切な情報の提供に努め、よりよい学習法の確立を援助する。イ⑩⑫	B	
		基礎学力向上のための支援を行う。ア②	B	
	教室内外の環境整備に努める	教室内の私物の管理を意識させるとともに、清掃の徹底を図る。ウ⑬	B	
		公共の場や公共物を大切にすることを心で育成に努める。ウ⑬	B	
	基本的な生活習慣の確立を図る	挨拶の励行及び時間を守る態度を育てる。ウ⑬	C	
		制服を正規着用できるように、自らを律する力を育てる。ウ⑬	C	
	人間性・社会性を養う教育活動の充実を図る	素直な心の育成、及び場面に応じた適切な行動を判断・実践していけるよう援助する。ウ⑬	B	
		学校行事や部活動に積極的に参加し、自らを律し他者と協調して共に成長する連帯感を養う。ウ⑬	B	
		言葉遣い、問いかげに対する誠実な返答等の礼儀指導に努める。ウ⑬	C	
		修学旅行またその事前学習を通じて、集団の中での役割を意識し活動していく力を養うとともに、平和の尊さを学ばせる。ウ⑬	B	
		進路ガイダンスやインターンシップにより、進路意識の高揚を図る。イ⑨	B	
第3学年	基本的な生活習慣の確立を図る	生徒自身の自覚を促しながら、服装・頭髪指導を行い進路実現の手だてとし、自律心を育てる。ウ⑬	B	/
		時間に対する意識を高め、欠席・遅刻を減らす。また、家庭との連携協力体制を作る。ウ⑬	B	
		挨拶や言葉遣い等の礼儀指導に努める。ウ⑬	A	
	良好な学習態度を確立させ、学力の向上を図る	始業前の着席と授業準備を徹底させ、授業に積極的に参加する態度を育成する。ア①ウ⑬	B	
		適切な課題を与えることにより、家庭学習の習慣を身につけさせる。ア⑤	C	
		学力定着のため、平常課外を定期的実施する。ア②⑤イ⑩	A	
	個に応じた進路希望の実現を図る	総合の時間を計画的に実施し効果的な情報提供と進路意識の高揚を図る。イ⑧ エ⑰	A	
		就職内定率100%を目指す。また、進学希望者については個々の志望に応じた進学指導を行う。ア④イ⑧⑨⑩	A	
		生徒との面談を充実させ、適切な指導をする。イ⑧⑨⑫	A	

※評価基準

上記具体的方策についてA, B, C, Dの4段階評価を行う。

- A 達成されている B ほぼ達成されている C あまり達成されていない D 達成されていない